

---

# 魔法少女リリカルなのはStrikerS ~ 3人の最凶 ~

LEOPARD

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers ～3人の最凶～

### 【Nコード】

N2956BA

### 【作者名】

LEOPARD

### 【あらすじ】

己の願いを叶えるために戦い続ける戦士たちがいた。人はそれを「仮面ライダー」と呼んでいる。ある時、3人の仮面ライダーが鏡の世界に住む異形「ミラーモンスター」を相手に戦いを繰り広げていた。だがその時、彼らは小さな赤い宝石の放つ光に飲み込まれ、気が付くと見知らぬ世界に降り立っていた。そこは魔法文化が発展した世界 ミッドチルダだった。元の作者である月光丸さんの許可をもらい、自分がもう一人のオリライダーを加えたりメイク作品です。

## プロローグ1 三人の仮面ライダー（前書き）

どうもはじめまして。LEOPARDと申します。

許可を取ったとはいえ初投稿なので、とてもドキドキしています。  
ちなみにタグにもあったように設定上ライダーは13人から15人  
に変更されています。

では魔法少女リリカルなのはStrikers（3人の最凶）、  
始まります！

## プロローグ1 三人の仮面ライダー

ここは日本のとある町。

この一見平凡とした町の裏では“仮面ライダー”たちによる己自身の望む願いを賭けた壮絶な戦いが繰り広げられていた。

これは鏡の世界・ミラーワールドにて戦いを続けている、3人の仮面ライダーによる物語である

????「全く、面倒な奴が現れたもんだ」

ミラーワールド内の廃ビルの中で1人、ミラーモンスターと戦っている戦士がいた。

サメのような意匠を持った水色の仮面の戦士、“仮面ライダーアビス”である。

アビスは今ミラーモンスターの一匹であるヤゴ型モンスター“シアゴースト”と戦っている最中だった。

アビス「まずはこれだな」

アビスはサメの紋章の入ったカードデッキから一枚のカードを抜き取り、左手に装備されている召喚機“アビスバイザー”に装填する。

《SWORD VENT》

アビスバイザーから音声が鳴ると同時にどこからか大剣アビスセイバーが飛来し、アビスの右手に収まる。

アビス「よし、いくか」

アビスセイバーを手に持ち、アビスはシアゴーストに向かって走り出す。

アビス「おらあっ!!」

アビスはアビスセイバーでシアゴーストを連続で切りつける。

シアゴーストも負けじと腕を振りかぶって襲い掛かるが、アビスはそれを難なく避けて、シアゴーストを蹴り飛ばす。

アビス「増えられると面倒だ、一気に決めるか」

アビスはカードデッキから別のカードを抜き取り、アビスバイザーに装填する。

《FINAL VENT》

音声が鳴り、アビスの後ろから彼の契約モンスターである“アビスラッシャー”と“アビスハンマー”の2体が出現する。

アビス「フッ！」

アビスは高くジャンプすると、アビスラッシャーとアビスハンマーの2体が空中のアビスに向けて高圧水流を纏わせ・・・

アビス「ハアアアアアアアアアッ！！！！」

もの凄いスピードで、水流を纏ったドロップキックを繰り出す。これがアビスの必殺技、“アビスダイブ”である。

動きの鈍いシアゴーストがこれを対処できるはずもなく、アビスダイブを受けて爆発した。

その後、炎の中からシアゴーストの魂が小さな光となって出現し、それをアビスラッシャーが吸収した。吸収し損ねたアビスハンマーは不機嫌そうに唸り声を上げていたが。

アビス「ふう・・・」

地面に着地したアビスが一息つく。

アビス「さて、戻るか」

現実世界に変えるべく、近くに鏡か窓ガラスがないか探す・・・

????「まだお帰りには早いんじゃないですか?」

アビス「!!」

どこからか誰かの声が聞こえ、アビスが声の下方向に振り返る。

すると階段からペンギンのような意匠を持った群青色仮面の戦士、“仮面ライダーコルド”が降りてきた。

アビス「お前・・・今まで隠れてやがったな。なんで今頃になって出てきた？」

コルド「いえ、あんな虫一匹いちい相手にするのも面倒でしてね。どうせならあなたに排除してもらおうと思っただけですよ」

アビス「てめえ・・・こつちだって面倒だったのに・・・」

コルドの台詞を聞いてアビスは不機嫌になるが・・・

シアゴースト「ウツヘウツヘウツヘ」

アビス・コルダ「ん?」

二人が振り返ると、その先にはシアゴーストが大量に出現していた。

コルド「排除してもらったつもりが、当てが外れたようですね」

アビス「ああもう、めんどくせえなあ!」

・ アビスが再びカードデッキからカードを抜き取るうとしたその時・

????「ここかあ、祭りの場所は・・・」

声のした方向にアビスとコルドが振り返る。

そこにはコブラの意匠を持った紫色の仮面の戦士、“仮面ライダー王蛇”がいた。

アビス「うわあ、また更にめんどくさいのが出てきやがったなあ」

コルド「あのまま隠れて様子を見ているべきでしたね」

アビスは嫌そうに呟き、コルドは自分のとった行動に後悔した。

王蛇もアビスとコルドがいることに気が付く。

王蛇「あ?・・・何だ、お前らも俺を楽しませてくれるのか?」

アビス「悪いが、お前のやることに付き合っ気はねえよ」

コルド「アナタみたいな奴と遊ぶと、かえって危なっかしいですからね」

アビスとコルドはそれぞれ返事を返す。

王蛇「はっ、連れない奴らだなぁ……」

王蛇はそう言うと、コブラの紋章の入ったカードデッキからカードを抜き取り、どこからか取り出したコブラのような杖型の召喚機“ベノバイザー”に装填する。

《SWORD VENT》

音声が鳴り、王蛇の右手にベノサーベルが飛来する。王蛇はそれを左手に持ち替える。

王蛇「イライラするんだよ……」

王蛇は首の骨をゴキゴキと鳴らし、シアゴーストの大群に突っ込んでいく。

アビス「あゝ、本当にめんどくせっ!!」

アビスもまたアビスセイバーを手に持ってシアゴーストの大群に突っ込んでいく。

コルド「私はこのまま黙って観戦……させてはくれないようですね」

シアゴースト「ウッへウッへウッへウッへ」

気がつけばコルドの周りにも何体かシアゴーストが迫っていた。

コルドはペンギンの紋章が入ったカードデッキからカードを抜き取り、今まで手にしていた大きな槍型の召喚機“スノウバイザー”に装填する。

《SWORD VENT》

音声が鳴ると、上空からペンギンの翼を模した2本の大剣スノウセイバーが飛来し、コルドの両手に収まる。

コルド「永久に氷の中で眠るがいい」

そういつてコルドも迫っていたシアゴーストに向けてスノウセイバーを振るう。

しかし3人は気付いていなかった。

自分達が戦っている戦場の中に、小さな赤い宝石が転がり落ちていくことに

## プロローグ1 三人の仮面ライダー（後書き）

はい。というわけで二つ目のプロローグでした。

ちなみにオリライダーのコルドの名前の由来はC O L D（冷たい・冷酷）から来ています。

詳細は次のプロローグが終わったらキャラ設定を載せますので、そこに書きます。

では感想などをお待ちしています。

## プロローグ2 異世界（前書き）

プロローグ2投稿しました。

ちなみに何故ペンギンをモデルにしたかというところ、それしかいいデザインが思い浮かばなかったからですw

## プロローグ2 異世界

アビスとコルドがシアゴーストの大群と対峙する中、王蛇も乱入し、戦いはさらに激化していく。

王蛇「ハッハアー!!」

王蛇はベノサーベルを振るい、シアゴーストを次々と吹き飛ばし、なぎ倒していく。

アビス「うわぁ、あの虫共が次々と・・・まあ、奴が数を減らしてくれるなら都合が良いな」

アビスもアビスセイバーを振るい、迫り来るシアゴーストを一体ずつ確実に倒していく。

コルドもまたスノウセイバーで、襲い掛かるシアゴーストを問題なく片付けていく。

3人が戦っているうちに、シアゴーストも30体近くはいたのだが、いつの間にか後5体ほどに減っていた。

王蛇も痺れを切らしたのか、ベノサーベルを一旦投げ捨て、カードデッキからカード一枚抜き、ベノバイザーに装填する。

《FINAL VENT》



が出現した。

スノウフェザードは残っているシアゴーストに向けて口から冷凍光線を放ち、それに当たったシアゴーストたちは瞬時に凍り付いてしまふ。

コルド「てやつ！」

コルドは一旦捨てたスノウセイバーを再び手に持ち、地面を仰向けになりながら滑ってくるスノウフェザードの背中に飛び乗る。

そしてコルドはそのまま凍ったシアゴーストたちの傍を通りながら、スノウセイバーで次々と一刀両断していく。これがコルドの必殺技“フローズンスライサー”である。

凍ったシアゴーストたちは身動きを取ることなく、スノウセイバーの餌食となり爆発していった。

アビス「やっと片付いたか・・・」

アビスはシアゴーストたちが全滅したことを確認すると、その場を立ち去ろうとする。

しかし・・・

王蛇「オラアッ！！」

アビス「ッ!？」

突然王蛇がベノサーベル振るって襲い掛かってきた。

アビスは王蛇の攻撃をアビスセイバーで受け止める。

アビス「祭りはまだ終わってないってか？浅倉<sup>オシノ</sup>」

王蛇「まだイライラが納まらねんだ・・・少しは俺を楽しませろよ、二宮<sup>ニノミヤ</sup>」

そういつと王蛇は、アビスを無理やりなぎ倒す。

そしてアビスに向かってベノサーベルを振り下ろそうとするが・・・

アビス「図に乗るなっ!!!」

王蛇「ぐおっ!？」

アビスバイザーから水の衝撃波が発射され、王蛇は怯む。

その隙にアビスは素早く起き上がり、王蛇から離れるが・・・

コルド「ハアッ!！」

アビス「ぐあっ!？」

突然アビスの背中に何かで切りつけられたような激痛が走る。

振り返るとスノウセイバーを手にしながらコルドが対峙していた。

アビス「ちい、大野木おおのぎい……!!」

コルド「私も、このままサヨナラするつもりはありませんよ?」

アビスは体勢を立て直し、コルドを仮面越しから睨み付ける。

王蛇も同じく体勢を立て直し、再び構える。

王蛇「ハツハア……そうだ、それでいい。そうでないと面白くない……!!」

アビス「はあく、こっちは大迷惑なんだがなあ……」

コルド「よく無駄口をほざいてる余裕がありますね……」

3人は構える。

そして再び駆け出したその時……

キイイイン……

3人「「「!?!?!?!」」」

突然謎の音が響き渡る。

3人は音のした方向へ振り返る。

そこにはあの小さな赤い宝石があった。しかし何故か点滅している。

そして急に宝石が光りだした。

アビス「なっ  
」

王蛇「うおっ  
」

コルド「くっ  
」

数分後・・・

その場所には誰もいなくなっていた。

アビスも、王蛇も、コルドも、あの赤い宝石も、みんな姿を消して

いた

アビス「ん？」

アビスは目を覚まし、起き上がる。その隣には王蛇とコルドも倒れていた。

3人は今、どこかの工場跡地みたいなところにいた。

アビス「どこだ、ここ・・・？」

アビスはVバックルからカードデッキを抜き取って変身を解除し、にのみやえいすけ二宮鋭介の姿に戻った。

二宮「確か俺たち、廃ビルの中で戦っていたよな・・・」

二宮は外に出てみる。

それと同時に二宮は呆気に取られた。外には高層ビルがたくさん並んでおり、明らかに自分たちのいた平凡な町とは違っていたからだ。

二宮「・・・どうなってんだ？」

二宮は何故自分達がここにいるのか理解できなかった。

自分はさっきまでミラーワールドで王蛇、コルドと戦っていたはず

なのだが、突然そこらに落ちていた赤い宝石が光りだしたと思っただら、いつの間にかここにいたのだ。しかも自分達がいたミラーワールド内の廃ビルで、工場跡地ではない。不思議に思うのは当然だろう。

二宮「ん？」

二宮は足元にあの赤い宝石が落ちていることに気付き、拾い上げる。

二宮「まさかとは思うが・・・これの所為か？」

二宮が不思議に思っている間にコルドと王蛇も起き上がった。

王蛇「あ・・・？どこだ、ここは」

コルド「現実の世界・・・ではないようですね」

王蛇もコルドも不思議そうに周りを見渡している。そして二宮がいることに気付く。

コルド「二宮、ここはどこですか？私達はミラーワールドにいたんじゃないかったんですか？」

二宮「さあな。俺だつてわかんねえよ」

二宮がそう言い返すと王蛇とコルドはその場から立ち上がり、Vバツクルからデツキを抜き取って変身を解除し、あさくらたけし浅倉威とおおのぎかずお大野木一雄の姿に戻った。

大野木「まったく、今日は本当に不愉快な日ですねえ・・・」

二宮「それは俺だつて一緒だつての」

浅倉「お前らをつぶせば、少しはイライラが収まるかもしれないなあ……」

二宮「お前のイライラを俺たちに押し付けんな」

大野木「確かにそれはいい考えかもしれませんが」

二宮「お前もかい……」

言い合っている中、大野木は二宮の持つ赤い宝石に気が付く。

大野木「……その赤い宝石はなんですか？」

二宮「あ？ああ、今ここで拾ったんだが、どうやら俺たちはこいつの所為でこの場所にいるみたいだぜ」

大野木「はあ？そんな宝石の所為で？……もう少しマシな考えは……」

大野木が呆れ返るような言い方で話していると……

キイイイイン……キイイイイン……

3人「「「!!!」」」

突然頭に響く金切り音。それはつまり・・・

二宮「モンスターか・・・」

浅倉「ちょうどいい、イライラが解消できそうだ」

大野木「こんな見知らぬ場所にもいるんですね」

3人は近くの窓ガラスの前まで移動し、自身のカードデッキを突き出す。

すると3人の腰にVバックルが出現する。

そして変身ポーズを取り、あの台詞を叫ぶ。

3人「「「変身!!!」」」

カードデッキをVバックルにはめ込み、二宮はアビス、浅倉は王蛇、大野木はコルドに変身した。

アビスは左手のアビスバイザーを2回撫で、王蛇は首の骨をゴキゴキと鳴らし、コルドはスノウバイザーをくるくると持ち回す。

王蛇「さあて、いくか・・・」

アビス「面倒だが、行くしかないか」

コルド「邪魔になるような真似はしないでくださいよ、お二人さん」

3人は窓ガラスに近づき、ミラーワールドに突入した。

## プロローグ2 異世界（後書き）

コルドの変身ポーズですが、単純に腕をクロスした形のつもりです。  
よければ想像してみてください。

では感想お待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2956ba/>

---

魔法少女リリカルなのはStrikerS ~ 3人の最凶 ~

2012年1月8日02時51分発行